

## 第12回学術大会抄録

### 3 自己観察に基づく生活変容の立案 — 国家試験・就職を目指して —

計良倫子, 本間和代

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 自己観察, 生活変容, 歯科衛生過程

## はじめに

本学歯科衛生士学科では、例年11月より、国家試験対策を開始している。9月末で臨地・臨床実習を終えた3年生は、翌年3月に行われる国家試験に向けて、本格的な学習のまとめを始めると同時に就職活動も並行して行う。しかし、模擬試験等の結果を見ると、学生ごとに国家試験に対する意識や心構えの違いが伺える。また、就職活動に力を入れている学生が、必ずしも模擬試験で合格点に達しているわけではなく、就職に対する意識にも違いが見られる。

学生の最終目標は、国家試験に合格し、就職あるいは進学することである。そこで、国家試験対策や就職活動等を開始した学生らが、現在の自分をどう考えているか、また、自分の目標およびその目標達成のために、どのような生活変容が必要と考えているかについて、歯科衛生過程に基づき検討した内容をまとめ、指導に生かすことを目的とした。

## 対象および方法

対象：歯科衛生士学科3年女子58名

方法：臨地・臨床実習が終了した10月、歯科衛生過程に基づき、自己変容過程における自己観察、自己診断、自己変容の計画立案について、自由記載によるアンケートを行った。自己観察では、①知識②技術③コミュニケーション④礼儀・作法⑤医療従事者としての心構え⑥その他の6項目についての情報収集を行い、自己診断では、自己観察から抽出した問題点の明確化、計画立案では、優先順位(何からする)・目標設定(どうなりたい)・介入方法(何をやる)について、調査した。

調査は自由記載のため、類似する内容を各グループでまとめた。

## 結果および考察

自己観察においては、①知識で基礎知識不足を挙げた者が94.8%と最も多かった。このことより、解剖学・生理学等の総合基礎医学を苦手としている学生が多いことが伺える。②技術で歯科予防処置分野を苦手としている者が29.3%と多いのは、臨地・臨床実習において、歯科診療補助は各実習先で多く経験できるものの、歯科予防処置は本学のみの実習であることから、経験不足による不安を感じているものと思われる。また、③コミュニケーションと④礼儀作法では場に応じた会話ができないが32.1%、敬語の使い方に自信がないが35.7%であったことから、自身が使用している敬語等に不安を感じていることで、スムーズなコミュニケーションが図れないことが伺える。自己診断では、学力不足を挙げた者が75.9%と最も多く、それに基づく計画立案の優先順位では、各教科の基礎知識を身につけるが75.9%、目標設定では、国家試験合格が31.6%、介入方法では勉強をするが75.0%であった。これらのことから、模擬試験を受験することで個々の実力が明らかとなり、国家試験合格のためにはまだまだ学力が足りないと感じている学生が多くいることが伺える。また、目標設定において、基本的生活習慣の確立を挙げた者も多く、将来社会人として勤務するために、学力だけでなく、基本的生活態度も重要であると感じている学生が多いことが伺える。

## まとめ

10月という早い時期に行ったこの取り組みは、学生たちにとって、国家試験合格に向け、心新たに学習することの必要性を知る良い機会となった。